

## ＼ 関係者に話を聞きました！／

## 生活支援コーディネーターの声



地域住民へのアンケート調査を行うなど話し合いを重ね、現在の移動販売の形ができました。「早く移動販売に来てほしい」という地域の方の声もありましたが、既存店舗への配慮や利用者の安全が確保できるかを丁寧に確認しました。現在は、3ヵ月に1回、定期連絡会で状況を共有し、改善を重ねています。地域の変化に応じて内容を見直し、生活支援コーディネーターが関係者をつなぎ調整することで、よりよい運営を続けています。

## 事業者の声



移動店舗は、基本的にドライバー1人で担っています。準備、片付けなど、地域の皆さんの協力のおかげで、安全に運行することができます。毎週、同じ担当者が地域を回ることで顔なじみになり、安心感が生まれ、地域の見守りにもつながっています。これからも移動店舗の機動力を生かして、地域に寄り添い続けることが大切だと考えています。今後も地域の方や関係者と話し合いながら、よりよい形を探り、移動店舗を継続していきたいです。

## ～一緒に地域づくりを考えてみませんか～



「困っている人がいる」「このまちで暮らし続けたい」そんな思いをきっかけに、住民同士が知恵を出し合うことで、支え合いの形は少しずつ広がっています。

特別な資格や大きな行動がなくても大丈夫。あなたの気づきや声が次の支え合いにつながるかもしれません。

このまちで、これからも安心して暮らし続けるために、一緒に、地域づくりを考えていきましょう。



## 編集後記

移動販売車の到着を待つ間、地域の皆さんが自主的に机を運び出し、商品を並べる準備を進める姿が印象的でした。その中には、お子さんの姿もあり、世代を超えた協力が自然に生まれていました。移動販売は単なる買い物の場ではなく、人と人がつながる交流の場であり、地域のぬくもりを感じるあたたかな時間が流れていきました。今回、取材に協力してくださった皆さん、ありがとうございました。

買い物支援から広がる  
協働のかたち

## ～生活支援体制整備事業の一例を紹介します～

スーパー・マーケットやコンビニエンスストアなどの店舗が減少し、日常生活に不便を感じている地域もあります。ここでは、口吉川ふれあいまちづくり協議会の会長を務める密さんに移動販売の導入に至った経緯や導入後の変化などについて話を聞きました。



## 協働で実現した移動販売

まず、どのような事業者が移動販売を行っているかを知るために、他自治体の事例など情報収集を行い、地域の方、事業者、生活支援コーディネーターが一体となり意見交換を重ねました。さらに、生活支援コーディネーターと一緒に地域住民へのアンケート調査を行い、住民の声を丁寧に拾いあげました。その結果を踏まえ、必要とされる商品や望まれる販売方法など、地域にとって本当に必要な形について検討しました。

車体についても、実際に移動販売車を見学し、利用される方の立場で考えました。商品が見やすく、シャッターを利用していても段差を気にならずに買い物ができるよう配慮しました。さらに、どのような事業者が移動販売を行っているかを知るために、他自治体の事例など情報収集を行い、地域の方、事業者、生活支援コーディネーターが一体となり意見交換を重ねました。さらに、いつも利用されている高齢者の方も多く、「移動販売のアナウンスが流れる嬉しさ」といった声もあがっています。買い物をきっかけに、これまで顔を合わせる機会の少なかった住民同士が会話を交わし、地域内の交流が深まっていくと感じています。



## 心豊かに住み続けられる地域に

「買い物」を大切にし、移動販売が長く続くようにしていきたいと考えています。また、みんなが集まり、顔の見える関係性を築くことができる居場所づくりにも力を入れたいと思っています。

今後も住民一人一人と対話をし、心豊かに住み続けられる地域をめざします。

## 移動販売を導入したきっかけ

ました。こうした立場を超えて支え合つ三者の協働により、移動販売が実現しました。

## 導入後の地域の人の変化

さらに、いつも利用されている方の姿が見えない時には、自宅を訪ねて声をかけるなど、さりげない見守りにもつながっています。移動販売は、買い物支援にとどまらず、地域の安心を支える大切な役割を果たしています。

／ インタビュー！



口吉川ふれあいまちづくり協議会  
会長／密 祐浩さん